

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①ICT 利活用授業研究推進校として、ICT を効果的に活用しながら生徒が自ら課題を発見し、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開することで、一人ひとりの一層の学力向上を図るとともに、地域をリードする学校として研究推進体制の整備と研究の深化の成果を地域に普及していく。</p> <p>②新しい学習指導要領のスタートに向け、カリキュラムを見直し定着させる。</p> <p>③特別活動においても、生徒の主体的・対話的で深い学びを追求させる。</p>	<p>①ICT 利活用授業研究推進校としての実績を維持しつつ、STEAM 教育研究推進校2年目として生徒の主体性・探究心を伸ばす授業を実践し、1人1台端末の効果的な活用について組織的な授業改善を進める。</p> <p>②新学習指導要領の意義やねらいを職員間で共有し、学校教育目標やスクール・ポリシーで示した資質・能力を育成できるよう組織的な研究を進める。</p> <p>③特別活動を通して、主体的・対話的で深い学びを追求し、思考力・判断力・表現力等を育成する。</p>	<p>①本校の STEAM 教育の実践について総合的な探究の時間を主軸に置き、学校教育目標等で掲げた育てたい生徒像や育成したい資質・能力を念頭に置きながら、教科横断的な取組の方向性を組織的に議論し、研究する。</p> <p>②生徒の基礎的な知識・技能の習得のための指導を継続的に実践しつつ、学習評価を通して生徒に次の学びに向かう動機付けを与え、ともに、評価の結果を教員の指導の改善につなげる。</p> <p>③委員会活動や学校行事を通して、生徒がリーダーシップを発揮できる環境づくりを進める。</p>	<p>①STEAM 教育研究推進校2年目として、生徒の主体性や探究心を伸ばす授業を実践することができたか。また、1人1台端末の効果的で組織的な授業改善を進めることができたか。</p> <p>②新学習指導要領の科目を中心に、学校教育目標等に示した資質・能力を育成できるよう組織的に研究できたか。</p> <p>③行事アンケート等の回答結果から、特別活動において生徒がリーダーシップや達成感、学びの深まりを実感していることについて把握することができたか。</p>	<p>①STEAM 教育に関する研修会を3回実施し、教科横断的な授業改善の取組や1人1台端末の効果的な活用について職員全体で目指す方向性を共有する時間を核として主体的・探究的な学びを深めさせることができた。</p> <p>②職員間の情報共有や実践力向上のため、例年の授業研究会とは別に校内での授業研究会を実施し、新学習指導要領における学習指導について議論を深める機会とした。</p> <p>③体育祭や文化祭では、生徒主体で行事を運営できるように話し合いの場を多く設定し、多くの部分で生徒の意見を行事に反映できた。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートや授業研究会等の機会を通して授業改善の効果について検証し、より効果的な授業改善ができるよう組織的に研究していく。</p> <p>②来年度には全学年で新学習指導要領の科目が実施されるのを見据え、再来年度以降入学生のカリキュラムの検証と見直しを行っていく。</p> <p>③行事アンケートの回答結果から、準備期間中の指示が曖昧だったなどの問題点が判明したので、来年度に向けて委員会活動を改善し、生徒がリーダーシップを発揮できる工夫をする。</p>	<p>①STEAM 教育研究推進校2年目となり、総合的な探究の時間を核とした組織的な取組が着実に進められている。2年生のテーマ探究においても、主体的に教科横断的な学びが深められている。学校外の機関とも連携しつつ、評価方法を工夫することで生徒の学ぶ意欲を一層高めてもらいたい。</p> <p>②生徒の学ぶ意欲を高めるため、引き続き教育課程の検討や組織的な授業改善の取組を進めてもらいたい。</p> <p>③文化祭でも生徒が主体的に活動している様子が見られた。引き続き、生徒の成長につながる支援をしてもらいたい。</p>	<p>①STEAM 教育に関する3回の研修会や相互の授業参観・授業研究会等を通じて、教科の枠を超えて組織的な議論・研究を深めることができた。総合的な探究の時間を通じて、生徒が教科横断的に学びの成果をまとめることができるよう支援していく。</p> <p>②教育課程の見直しに向けた議論を通じて、本校で育てたい生徒像の議論を深めることができた。学習評価を生徒の次の学びに向かう動機付けや、評価結果を教員の指導改善にどうつなげていくかについては、引き続き研究を進めていく。</p> <p>③生徒が主体性を発揮できる環境づくりを進めることができたが、具体的な活動時に課題が見られた。その課題を生徒が主体的に解決できるよう支援していく。</p>	<p>①次世代を見据えた ICT 教育環境の一層の整備を進めつつ、それらを効果的に活用して生徒の主体的・探究的な学びを支援できるよう組織的に研究する機会を充実させていく。</p> <p>②新たな教育課程の3年目となり、これまでの達成状況を振り返り、学校教育目標を踏まえたよりよい教育課程の編制に取り組む。</p> <p>③体育祭と文化祭が同年開催となった今年度の反省をいかして、生徒が主体的に課題解決できるよう、引き続き環境づくりを進めるとともに支援をしていく。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①安心・安全な高校生活のための規範意識向上と他者理解の感性を育成する指導法を確立させる。</p> <p>②知・徳・体を兼ね備えた人材の育成を目指し、創造力・バイタリティを身につける指導法を確立させる。</p> <p>③スクールカウンセラー (SC) ・スクールソーシャルワーカー (SSW) 等と連携して課題のある生徒に対して情報共有を図るとともに、適切に対応する。</p>	<p>①安全かつ安心な環境を確保し、学校生活の中で規範意識の醸成と他者を思いやる力の育成に取り組む。</p> <p>②豊かな心と健やかな体を育み、将来に活かせる独創的な創造性や積極的な行動力を養う。</p> <p>③一人ひとりのニーズに応え、共に成長することをめざし、不安やストレスを抱える生徒への支援体制や情報共有のしくみを確立させる。</p>	<p>①登下校指導や集会等を定期的に行うとともに、日常の学校生活の中で生徒へ統一された声掛けを行い、生徒一人ひとりのモラルアップを目指す。</p> <p>②主体的に行動できる力や豊かな感性を伸ばし、自己肯定感や達成感が得られるよう、学校全体で部活動の活性化の取組を引き続き進める。</p> <p>③SC・SSWや情報共有検討会議・ケース会議を有効に活用し外部機関とも連携を図るとともに、学校生活の中で支援を必要とする生徒の早期発見と対応ができるよう、日常的な声掛けを積極的に行う。</p>	<p>①教職員が統一して生徒への声掛けを行うことができたか。また、日常生活の観察や意識調査の結果から、規範意識や他者への思いやり等のモラルアップの状況を捉えることができたか。</p> <p>②部活動等の実施に係るアンケート結果のうち、自己肯定感や達成感の項目においてプラス評価となったか。</p> <p>③積極的な声掛けができ、支援を必要とする生徒の早期発見に努めることができたか。また、生徒の情報収集・共有し、迅速かつ適切な対応ができたか。</p>	<p>①校内のルールについて声掛けによる指導をおこなったが、防寒着を着用した時の服装や敷地内降車指導、通学用自転車へのステッカー貼付け等徹底することができなかった。</p> <p>②新入生対象の部活動紹介や勧誘を積極的に行い、新入生の部活動加入率は92.5%と、昨年度の85%より増加した。</p> <p>③サポートドックのアンケート結果を基にスクリーニング会議を実施し、SC・SSW・養教・担任によるプッシュ型面談をおこなった。面談を通して、支援を必要とする生徒の早期発見につなげることができた。</p>	<p>①声掛けや掲示物等は継続しておこない、啓発指導を根気強く続けていく。改善されない場合には、一斉点検をおこなう等、生徒への伝達方法を検討する。</p> <p>②部活動紹介や体験週間等を、より生徒主体に実施させることで、さらなる部活動の活性化を図る。</p> <p>③サポートドックについて、アンケートへの回答を促す声掛けと入力された回答結果について積極的に活用する体制づくりを検討する。</p>	<p>①自転車乗車について、近隣住民からの指摘は地域全体としての課題でもある。自身の安全だけでなく、周囲の社会全体の安心とともに担うという視点での指導をお願いしたい。</p> <p>②部活動の活性化への取組を継続しつつ、生徒の成長につながる支援をしてもらいたい。</p> <p>③支援を必要とする生徒が安心して通学・勉強できる環境づくりを進めてもらいたい。</p>	<p>①教職員へ校内のルールを周知することができた。今後は統一した指導ができるようにしていく。生徒の規範意識の向上は、声かけだけでは改善の見られない生徒がいる。</p> <p>②部活動紹介等により加入率は増加した。部活動の活性化への取組を継続し、生徒の主体性等を伸ばせるよう支援していく。</p> <p>③生徒の情報共有は組織的に行えるようになってきている。支援を必要としている生徒の早期発見もできるようになってきたが、教育相談業務が回らない状況になっている。</p>	<p>①PTA や地域と協力し、生徒の交通安全に対する意識の向上を図っていききたい。引き続き声かけを行っていくが、改善の見られないことについては一斉点検を行うなど、生徒への提示の仕方を検討していく。</p> <p>②4月の部活動紹介や8月の部活動公開週間に限らず、普段の活動から生徒が主体的に行動できるよう支援していく。</p> <p>③教育相談業務が円滑に回るように、組み方の変更や聞き取りに担任・部活動顧問を組み込むなど工夫していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①情報化・グローバル化に伴う社会や産業の構造変化と予測困難な時代に主体的に向き合っ問題解決できるキャリア教育を推進する。</p> <p>②進学校としての教育活動を進め、生徒がより高い目標を実現できるような体制を確立する。</p>	<p>①生徒の主体的な行動を促し、将来を見据えた高い進路意識を身に付けさせるための環境を整えている。</p> <p>①グローバル社会で活躍する人材育成のため、世界の言語・習慣文化などの理解に向け、他国の人々との交流の機会を設ける。</p> <p>②将来に向けて具体的な目標を考えさせ、高い目標を掲げた上で進路実現を目指すことのできる効果的な環境を整える。</p>	<p>①生徒一人ひとりが自身のキャリアを見据えて、進路選択ができるよう、外部機関との連携やコンソーシアムの活用及びシチズンシップ教育の充実を図る。</p> <p>①カジョリーナ・シニアカレッジ(姉妹校・オーストラリア)との交流のあり方や留学の意識を高めるために、必要な交流・説明会を検討する。</p> <p>②生徒が明確で高い目標を設定できるよう支援するとともに、模試等を計画的に活用して自身の能力を伸ばすことのできる指導体制を構築する。</p>	<p>①面談やアンケート調査等により、生徒のキャリアを見据えた進路意識が高まったか。</p> <p>①姉妹校との具体的な交流の再開を模索し、参加した生徒の主体的な取組を支援することができたか。</p> <p>②生徒一人ひとりが、卒業後の進路実現に向けて具体的な行動に移せるような支援ができたか。</p>	<p>①東海大、産能大との高大連携事業や社会人講話、各学年の進路ガイダンスを実施し、進路意識を高めることができた。</p> <p>①令和6年度の訪問・受入れの再開に向けて具体的な調整や準備を進め、生徒や中学生にも情報を提供した。</p> <p>②ベネッセのClassiやCompassを活用し、日々の学習状況や模擬試験などの生徒一人ひとりのデータに基づいた進路選択ができた。</p>	<p>①東海大、産能大だけでなく、他の大学や企業との連携先を増やして、生徒への啓発を高めていく。</p> <p>①今年度はオンライン交流等を進めながら、来年度の参加希望者への事前指導等を計画的かつ具体的に進めていく必要がある。</p> <p>②次年度は全学年がClassiを活用する環境となるので、活用の幅を広げ、生徒のより効果的な使用に向けて指導する。</p>	<p>①体験授業、出前授業に向けて、生徒のニーズに応えられるよう、高校との綿密な打ち合わせが必要である。</p> <p>①姉妹校交流の再開は喜ばしい。オンライン等もうまく活用して、参加者のみならず多くの生徒に還元できる交流事業を模索してもらいたい。</p> <p>②Classiによって何ができるようにするのかを明確に示し、職員と学校運営協議会委員との共有を図ってもらいたい。</p>	<p>①高大連携事業が、生徒の進路選択に向け効果的に行われている。事後アンケート調査による生徒の感想が集約できると指導に役立つ。</p> <p>①令和6年度の訪問・受入れの再開が決まり、具体的な準備を進めている。参加生徒以外にも姉妹校交流の恩恵が享受できる形態を模索していく。</p> <p>②Classiが生徒の学習支援や教員の生徒情報共有として効果的に利用されている。その他の機能によって活用の幅を広げていく。</p>	<p>①STEAM教育の観点から、大学側の授業を計画・設定することを検討する。また、Classiのアンケート機能を使って、生徒の感想を集約する。</p> <p>①来年度受入れ時に「国際交流デー」を設け、学校組織全体で姉妹校交流事業を推進していく。</p> <p>②キャリア教育グループ主体でClassiの活用研修を繰り返し実施したり、また活用例をできるだけ多く提示したりして、全教員が効果的に活用できるよう提案していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域との連携をより深めるとともに、地域と協働し、学校の人材育成や地域の活性化に積極的に取り組む。</p> <p>②地域の方々や保護者、在校生や卒業生など学校に関わる人が応援しやすくなる、魅力ある学校の広報、情報発信の充実を図る。</p>	<p>①探究的な学びの実践において、地域資源を活用した取組を実施する。</p> <p>②STEAM教育研究推進校としての取組を含む広報活動を、引き続き積極的に行うとともに、より分かりやすい情報提供に努める。</p>	<p>①総合的な探究の時間等の活動で、卒業生や地域企業と連携した取組を行うとともに、地域貢献できる人材育成に努める。</p> <p>②本校の魅力より詳しく広報するため、ホームページを中心にICTを活用した情報発信を積極的に行う。</p>	<p>①卒業生や地域企業と連携し、探究的な学びの実践および地域貢献が行えたか。</p> <p>②ホームページ「特色」「入学希望者の方へ」の項目をより分かりやすい内容に整理し、常に最新の情報発信を行うことができたか。</p>	<p>①卒業生による教育実習生講話や地域企業連携の機会を通じて、進路実現へ向けての動機付けをおこなった。地域清掃・保育園訪問等の活動を通して、地域への帰属意識を育んだ。</p> <p>②ホームページを含め、中学生向け部活動体験・授業公開等により、説明会以外の情報発信も実施した。</p>	<p>①総合的な探究の時間を中心に、全ての教科の授業において、探究的な学びを通じた自己実現ができるよう、引き続き取り組む。</p> <p>②生徒会による紹介動画等の発信も充実させたが、コロナ禍が一つの区切りを迎え、実際に見てもらった広報活動の重要性が増している。</p>	<p>①今年度から小学校との連携が再開して良かった。今後は中学校との連携の機会も増やしてほしい。</p> <p>②地域連携が進むことで、自然と広報活動となり秦野高校の魅力が伝わると思う。</p>	<p>①総合的な探究の時間を中心とした、様々な機会を通じて、地域の一員である秦野高校生という意識を育んだ。今後も地域へ貢献できる人材を育成できるようにしたい。</p> <p>②部活動体験・授業公開等の機会を通じ、来場者には本校の魅力を理解いただけたと思うが、さらなる広報活動が必要である。</p>	<p>①引き続き、卒業生や地域企業といった地域資源と連携した取組を行う。</p> <p>②分かりやすい情報発信に継続して努めるとともに、本校の実施しているSTEAM教育活動の広報にも努めたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒・教職員ともに安全・安心で快適な教育環境の整備・充実を進め、学習活動・部活動・学校行事等の活性化を図る。</p> <p>②不祥事防止の取組を組織的に進めるとともに、働き方改革の推進により教職員が教育活動の充実に向き合い、信頼に根ざした学校づくりを進める。</p>	<p>①防災や危機管理の面から教育環境の整備及び点検を進め、安全・安心で快適な環境のもとでの教育活動の活性化を図っていく。</p> <p>②職員の主体的な不祥事防止の取組と働き方改革を組織的に推進し、信頼と期待に応える学校づくりを進め、教育活動の充実を図る。</p>	<p>①耐震化工事終了を踏まえ、教育環境の整備・点検を進めていく。防災マニュアルや危機管理マニュアルの見直しを進め、すべての職員で安全・安心な教育環境を構築していく体制を整備する。</p> <p>②「不祥事ゼロプログラム」に基づき、職員一丸となって主体的に事故防止に取り組む。特に校務におけるコンプライアンスの徹底を図り、物品管理や私費会計の取扱い等の組織的な事務処理体制を構築する。職務の合理化についても職場全体で議論を深めていく。</p>	<p>①教育環境整備のための物品整備、防災マニュアルや危機管理マニュアルの整備を進め、職員全体で進めていくことができたか。</p> <p>②不祥事防止の観点から物品管理体制や私費会計の取扱いについて事務処理体制が整備できたか。働き方改革について職場全体で議論の場を設け、校務の改善や効率化につなげることができたか。</p>	<p>①危機管理マニュアルを整理し、教育環境の整備・点検のための体制づくりを進めた。</p> <p>②不祥事防止の観点から物品管理体制を整備するとともに、私費会計の一部ネットバンキング化を導入するなど、校務の改善や効率化につなげることができた。</p>	<p>①教育環境整備や防災・危機管理を日常的・組織的に共有するとともに、安全・安心で快適な環境を構築し、教育活動の一層の活性化を図る必要がある。</p> <p>②不祥事防止研修は月1回のグループ輪番制で実施した。働き方改革・校務改善・効率化の議論は職場全体及び各グループ等で今後も議論を重ねていく。</p>	<p>①校舎や設備の老朽化という課題の中でも生徒の安全・安心な教育環境の整備を工夫している。引き続き必要な改善や更新等を進めてもらいたい。防災・危機管理を日常的に意識づけてもらいたい。</p> <p>②校務改善の工夫や不祥事防止等に組織的に着実に取り組んでいる。未然防止を図るしくみを構築することで、生徒・地域・保護者等からの期待に応える学校づくりを進めてもらいたい。</p>	<p>①アフターコロナの中、防災訓練等も従来の形態に戻ってきた。安全・安心で快適な教育環境の整備を進めつつ、防災・危機管理に関して学校全体で日常的に取り組んでいく。</p> <p>②コンプライアンスの観点から、物品管理・私費会計における事務処理体制を改善できた。不祥事防止の未然防止を図る観点から、引き続き改善できる点を組織的に議論していく。</p>	<p>①生徒の学びの根幹に、安全・安心が最優先されることを念頭に置きながら、教育環境の整備や防災・危機管理の啓発等を進めていく。</p> <p>②校務の改善につながる議論を職員全体で日常的に風通し良く進めていくとともに、実効性の高い取組についてはスピード感を持って進めていく。</p>

